



恵那市教育研究所
http://www.ena-gif.ed.jp/

恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市役所西庁舎4階
TEL(0573)26-6850 FAX(0573)26-2155



「有限」

岩田中学校 3年生 西尾 妃由

「地域との繋がり」を大切にした保育

中野方こども園 渡会 由美



今まで色々な園で地域の方にお世話になりましたが、園長という立場で、より地域の方と接する機会が増え、改めて「地域との繋がり」を意識するようになりました。会議に参加し、地域全体の動きや町づくりを知り、連携の大切さや

園の役割など学ばせていただいています。

【恵那市の教育】こども園の指導の方針の一つに「地域に根差し、地域を生かす、特色のある園」があります。

園の活動では、散歩に出かけて地域を知ったり、出会った方々と挨拶を交わしたりと、施設訪問や地域の行事に積極的に参加しています。

施設訪問でお年寄りの方々と接する機会があります。園児の披露する歌や踊りに目を細め、肩たたきなどの触れ合いでは温もりも伝わり、「可愛いねえ。また来てね。」と、とても喜ばれます。

どの地域も年々園児数が減少し、近所に小さい子がいないということも珍しくなくなってきました。

散歩で出会った方は、「今日はどこに行くの?」と声をかけてくださったり「動物見てく?」と誘っていただいたりすることもあり、見守りや優しさを感じます。

また、園に来て野菜作りや盆踊り等様々な指導や、絵本の読み聞かせや楽器演奏などで園児を楽しませたり、収穫した野菜を届けてくださったり多くの方にお世話になっています。みなさん、園の力になりたい、子供たちの笑顔が見たいという思いからでしょう。そのお陰で、子供たちの体験と学びが豊かになっています。本当に有難く、地域愛を感じます。

お世話になっている方々に、日頃の感謝の気持ちを込めて行事に招待することもあります。お楽しみ会では、童心に帰ってお店巡りで「おもてなし」運動会では「頑張る姿を見てもらいたい」と張り切って、準備や練習に励みました。結果は大成功で、子供たちの成長を感じ「懐かしかった」「パワーをもらった」と喜んでいただけました。

目標に向かって取り組み、地域の方との関わりの中で達成感を得ることで、自分も地域の一員という自覚や地域への愛着【郷土愛】の土台を育んでいきたいと思っています。

地域行事の参加では、園児の姿を披露することで、普段園との関わりの薄い方々にも、園活動を紹介し理解を深め、関心をもってもらうことに繋がると考えています。「百聞は一見に如かず」、このような場やホームページ等での発信を続けていきたいと思っています。

園児の笑い声と元気な姿が、地域を更に元気にして地域力が上がり、園に廻ってくる循環で、活気あふれる園作りを目指します。加えて、園生活で付けた様々な生きる力の基礎が、スムーズに小学校に引き継げるように、連携を深めることも重要と考え、子供たちの交流や職員の研修会を実施しています。

子供は地域の宝、小学校との連携も深め継続した子育てを目指し、地域の方に見守られ、温もり、おもしろい、人との繋がりを大切にしたい保育をしていきたいと思っています。

今後も保護者や地域に向けて園の取り組みを発信し、地域に愛される開かれた園を目指していきたいと思っています。

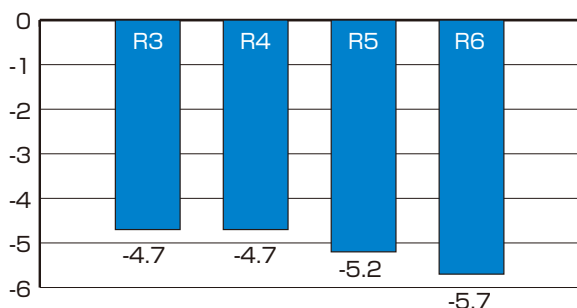


令和6年度

全国学力・学習状況調査(恵那市の結果)

小学校

恵那市から見た全国平均との差(小学校国語)

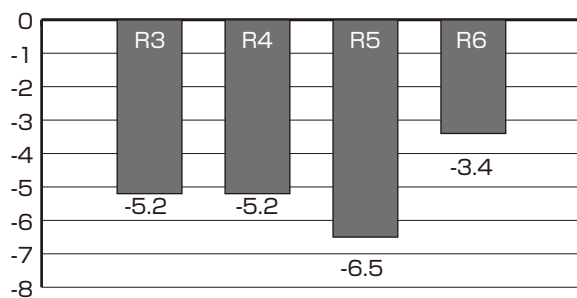


国語

県及び全国との平均正答率を比較すると、県からは3.0ポイント、全国からは5.7ポイント下回っています。

学習指導要領の内容別では特に、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」や、「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」において課題が見られました。特に「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題や、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題が正答率の低い問題でした。

恵那市から見た全国平均との差(小学校算数)

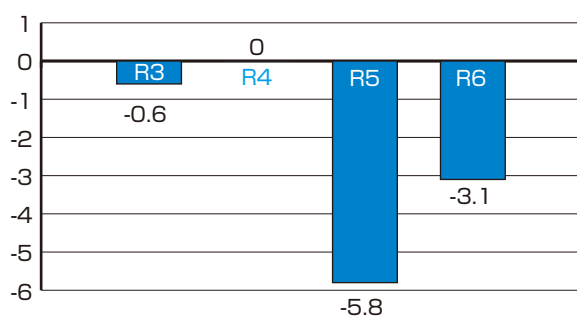


算数

調査開始以来、県及び全国との平均正答率を下回る結果が続いていますが、今年度は全国との差が最も小さくなっています。学習指導要領の領域別に見ると、全国との平均正答率と最も開きがあったのが「A 数と計算」となり、最も正答率が低かったのが「C 変化と関係」になります。また、短答式に比べ、選択式や記述式の問題の正答率が低くなっています。特に「除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる」問題や「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いのかを判断し、そのわけを書く」問題が正答率の低い問題でした。

中学校

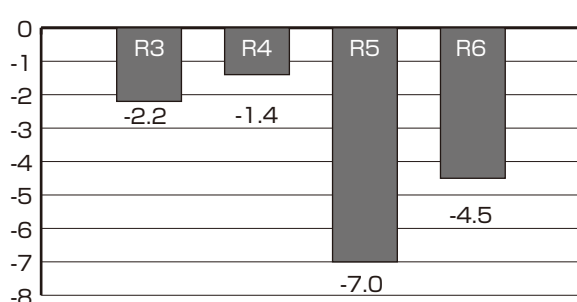
恵那市から見た全国平均との差(中学校国語)



国語

平均正答率の差を見ると、県との差はマイナス5.0ポイントで、全国との差はマイナス3.1ポイントであり、全国、県の平均正答率を下回る結果となりました。学習指導要領の領域別、評価の観点別に見ると、「知識及び技能」の「言語の特徴や使い方に関する事項」、「思考力、表現力、判断力等」の「話すこと・聞くこと」において全国、県との差が大きくなっています。特に「必要に応じて質問しながら話の内容をとらえることができるかどうかをみる」問題や「表現の効果を考え描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる」問題が正答率の低い問題でした。

恵那市から見た全国平均との差(中学校数学)



数学

平成27年度から県及び全国との平均正答率を下回る結果が続いています。しかし、令和6年度に下回ったポイントは県平均を6.0ポイント、全国平均を4.5ポイントと、全国との差は昨年度より小さくなっています。学習指導要領の領域別に見ると「A 数と式」の正答率が44.1%で、全国との差は7.0ポイントになり、最も差があります。また、評価の観点においては、「思考・判断・表現」の正答率が24.5%で、県との差は7.7ポイントになり、最も差があります。特に「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる」問題や複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題が正答率の低い問題でした。

【児童生徒質問紙より】

今年度の「児童生徒質問紙」の結果を見ると、「当てはまる」のみで比較すると全国や県の平均を下回る回答が多く見られますが、「どちらかという当てはまる」まで含めると、全国や県の平均を上回る項目が多いことが回答の特徴として見られます。そこで、今回は肯定的な回答を合わせて結果を分析しました。

まず、全国や県の平均回答率を上回る、若しくは改善傾向や継続して高い回答率の質問項目には、以下のものがありました。

- 9・・・自分には、よいところがあると思いますか
- 10・・・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- 11・・・将来の夢や目標を持っていますか
- 12・・・人が困っているときは、進んで助けていますか
- 13・・・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 15・・・人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 25・・・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- 27・・・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか
- 29・・・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか
- 33・・・学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思いますか

逆に、全国や県の平均を下回る、若しくは改善傾向が見られない質問項目には、以下のものがありました。

- 30・・・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
- 34・・・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
- 36・・・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

これらの結果から「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」「自己有用感」「社会性」「郷土愛」「主体性」「ICTを活用した学習状況」は、各校の授業改善やICT活用、「ふるさと学習」や「志教育」の取組が成果を挙げていると考えられます。今後に向けた課題として「個別最適な学びの視点からの授業改善」や「指導と評価の一体化」が挙げられます。以上が今年度の恵那市の全国学力状況調査の結果です。このような結果や分析、以下の授業改善チェックリストを参考に、各校に合わせた教育活動を工夫していただきたいと思います。

さらに詳細な結果や分析は恵那市HPに掲載しています。こちらをご覧ください。→
<https://www.city.ena.lg.jp/soshikiichiran/kyoikuinkai/kyoikukenkyusho/2/1242.html>



【授業改善チェックリスト】

- ☐ 習った単語や漢字を、生活ノートや授業のまとめなどで使うよう指導したり、反復練習する機会を確保したりしている。
- ☐ どのような教科・単元でも、根拠を明確にして説明する活動を大切にしている。
- ☐ 教科の学習と日常生活をつなげて理解することを意識して指導にあたっている。
- ☐ 必要に応じて質問したり確認したりすることで、仲間の考えを深く理解するよう、聞き方の指導をしている。
- ☐ 授業の中で児童生徒が単元の目標を定めたり、学び方を選択したりする機会がある。
- ☐ 自分で学習の流れを確かめたり、各自で迷った時に参考にしたりできる支援が準備されている。
- ☐ 学習内容だけでなく、学習方法について振り返る場を設けたり、価値付けたりしている。
- ☐ 「分からなかった」や「もっと知りたい」と感じた児童生徒が取り組むとよい内容を提示している。



『運動習慣ははじめの一步』プロジェクト

スポーツ課では『運動習慣ははじめの一步』プロジェクトとして、中部大学生命健康科学部の酒井俊郎教授と、水上健一准教授のご協力により、平成28年度から市内14のこども園で運動遊び交流会と体力測定・アンケートの分析を行っていますので、その取り組みを紹介します。

1 体力測定とアンケート

各こども園のご協力により、毎年春に年少から年長（4歳～6歳）を対象に7種目（身長、体重、25m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、体支持、握力）の測定を行い、中部大学に分析を依頼しています。

併せて、保護者に対し、子供や親の生活・運動習慣などのアンケートを実施し、全体として恵那市ではどのような運動能力が伸びているか、どういった生活習慣が子供たちの運動能力向上につながっているかといった分析を行っています。

2 運動遊び交流会

各こども園では年1回中部大学の先生による運動遊び交流会を実施しています。交流会は親子で行う場合もあり、保護者の方や子供たちが、身近な道具などを使って様々な運動を行うきっかけ作りの場としています。



例えば、新聞紙を使った遊びでは、マントのように持って親子で鬼ごっこをする。ガムテープでボールを作って遠くに投げる。真上に投

げてキャッチする。ボールをキャッチする前に手をたく。丸めたボールを蹴ってパスの練習をする。ガムテープの色を変えて指定した色のボールを集めるなど様々な動きを身近なモノを使い、遊びながら学びます。

「この時期の子供たちは様々な運動能力が大きく向上する時期なので、一つの決まった動きを大人が教えるのではなく、様々な動きを体験し、子供たちが自ら気付くことが大切」と言われています。

例えば、ボールを遠くに投げるには、野球の投げ方ではなく、上から投げる、横から投げる、手前でボー



ルを離す、遠くでボールを離すといった様々な投げ方を子供たちに体験させます。自分で繰り返し挑戦することで、失敗して、自分なりにこういう投げ方をしたら遠くに飛ぶんだということに気付き、遠くに投げる体の動かし方を身に付けます。

それらの体験を通じてこども園や自宅で子供たちが楽しみながら運動ができる方法を提供できればと考えています。

3 運動遊び講話と研修会

親子の運動遊びの後は、保護者向けに幼児期の運動、生活習慣のアンケートや体力測定を参考にした講話を行っています。保護者からは「遊びを通して身体の使い方を学ぶことがわかった。」「親子運動遊び後の講演で話を聞き、ダンス教室に通うことに決めた。」など子供とのかかわり方や身近なものを使った遊びについて考える機会となり、大変好評でした。

また、こども園の保育教諭を対象とした研修会を実施し、どうやら子供たちが遠くにボールを投げられるようになる



か、長時間バランスを取りながら体支持できるようになるか等の保育教諭からの疑問と解決方法を共有しています。

大きくなって様々なスポーツに興味をもってもらうためにも、幼児期の遊びや運動に親しむことで日常的に体を動かす習慣を身に付ける取り組みを、今後も『運動習慣ははじめの一步』プロジェクトを通じて充実させていきたいと思っています。



仲間とともに感じよう!楽しもう!つくりだそう! ～身近な自然の中で～

やまびここども園

「仲間とともに感じよう!楽しもう!つくりだそう!」～身近な自然の中で～を園のテーマに子供たちと話し合いをしながら、楽しい保育をめざしています。

1 楽しかった親子遠足(春の自然の中で)

自然豊かな地域に住んでいて、子供たちは散歩に出かけ、ヨモギを摘んだり、草花を摘んできておままごとをしたり毎日楽しんでいます。そんな遊びを親子で楽しむ機会を設けようと「森の達人(木育クラブ)」をお願いし、親子遠足で子供たちの遊んでいる自然を知ってもらう計画をしました。

葉っぱを使って作る「お雛様」や、ヒメジオンが天ぷらにすると食べられる話など「こんなのができるの?家でもやってみよ。」「今度散歩に行こう。」など保護者から自然の良さに気付く言葉が出て、実際に家で遊んだ家庭もありました。



自然物を介して親子で外に出かけるきっかけ作りができ、自然に触れ、いろいろな体験や、感じる機会が増えました。

2 染物づくり

毎年、各学年運動会に着るTシャツを作ります。昨年は、藍を育てて染めました。今年度は、年長児「ハルジオン」年中児「桑の葉」年少児「玉ねぎの皮」で染めることにしました。

春散歩に出かけると、年長児は「ここにハルジオンある。」と気にかけて採る様子がありました。そしていよいよ、Tシャツ作りです。ペットボトルのキャップとゴムでTシャツを絞り、ハルジオンの煮汁に入れました。「黒色っぽいのに、Tシャツ入ると茶色!」など口々に言いながら入れ、次の工程ミョウバン液に入れると「わあー、黄色になった!」と大喜び。ゴムを取るときれいな絞りが現れ、また感嘆の声を上げる子供たちでした。

この不思議な体験が、子供たちのやりたい気持ちを

くすぐり春の材料集めにもつながったと思います。自然の力を借りて、楽しみながらいろいろなことを感じている姿です。

3 畑づくり

今年も、子供たちと相談して野菜づくりをしました。植えたのは、年長児「とうもろこし」「なす」「にんじん」、年中児「えだまめ」「パプリカ」、年少児「おくら」「きゅうり」、未満児「ミニトマト」「ピーマン」。水やりをしたり、草取りをしたり、そして収穫!自分たちで採ったお野菜は格別で、苦手なお野菜も、食べられる子が多くいます。自分たちで作ったお野菜を食べようになり、苦手なものでも、食べてみようとする子も増えていきます。

年少児は、食べるだけではなく、野菜スタンプを楽しみ「見て、お野菜こんな形!」と形に興味をもちました。



年中児は、パプリカの色の変わり方に興味をもち「緑、黄色、赤に変わってくる。レインボーパプリカだね。」と畑に行ってみたり、部屋に置いて観察したりしていました。

年長児は、とうもろこしが何者かに食べられてしまい、落とし物(ウンチ)から動物を調べたり、退治の方法を考えたりしました。動物の方が食べ時をよくわかっている収穫ゼロで、自然の厳しさも学びました。

保育教諭が環境を整えていく、野菜づくりの自然の中で、自分たちが活躍できる場ができます。そのことが、意欲につながり、食育にもつながっていると感じます。

カヌー体験など、この地域ならではの、自然に触れる機会も多くあります。自然の中で、これからもいろいろな体験ができるよう取り組んでいきます。



「強く優しい先生になれ」私が初任2年目のときに、教頭先生からいただいた言葉です。その言葉の本当の意味が分かってきたのは、何年もたってからでした。今でもこの言葉は私の宝物です。教員になって初めての学校で、先輩の先生方から、私の教員人生の基

礎となる宝物をたくさんいただきました。

初任の年から一緒に勤めた母親と同じくらいの年齢の、ベテランの先生がみえました。ある日、私の学級の児童がその先生に叱られました。私は、自分が指導しなければならなかったのに他の先生に指導させてしまったという反省ばかりで、どうしてよいか分からず、黙って見ているしかありませんでした。その後、

その先生に「そういうときは、担任は『〇〇先生の言うとおりにだよ』と同調するか、その子の側に立って一緒に反省するか、どちらかやに。」と言われました。なるほどと、担任としての役割を再確認しました。

少し先輩の先生の学級は、私の学級とは違って全校集会でも並ぶことが早く、一つ一つの動きがスムーズでした。どんな厳しい指導をしているのだろうと観察していると、指示は短く的確で、休み時間には子供たちと楽しそうに笑ってみえるのです。そして職員室では、未熟な私をほめてくださったり、プライベートの話をしたりして和ませてくださいました。こんな先生になりたいと憧れました。

これまで多くの先生方と出会い、自然に学ばせていただきました。OJT（On-the-Job Training）とは、そういうことなのではないかと思っています。



令和6年度

夏休み 恵那市児童生徒の 科学作品展審査会・読書感想文審査会結果

恵那市科学作品展

(敬称略)

審査結果	題 目	学 校 名	学 年	氏 名	備 考
優秀賞	たねからはなをそだてたよ	岩 邑 小	1	かわた げんすい	三好学賞
	せみのぬけがらしらべ	三 郷 小	1	やすだ いちと	
	ぼくとてつミニたたら	岩 邑 小	2	高 瀬 瑛 國	
	ぼくのチャレンジ!プランターで大きなスイカをそだてる～たねからめが出るまで～	串 原 小	2	大 島 慧	三好学賞
	ゴムの木のその後	武 並 小	4	鈴 木 琴 葉	三好学賞
	トンボをおいかけた夏休み4	長 島 小	4	山 田 創 介	
	発酵の不思議	岩 邑 小	5	高 瀬 琉 奈	
	アリの研究④クロナガアリと5ひきの女王アリ	大 井 小	5	河 合 るりの	
	発見! 上矢作のおいしい水	上 矢 作 小	6	中 根 詩	
	ダイラタンシーの不思議	明 智 小	6	堀 馨 太	

読書感想文コンクール 恵那市作品審査会

(敬称略)

審査結果	感想文の題名	書 名	学 校 名	学 年	氏 名
優秀賞	低学年	自分の力で肉をとる	恵 那 北 小	2	高 橋 環太郎
		たくさん心さがしたよ	大井第二小	2	三 戸 陽和太
		ペテラノドンのこみたいにね	岩 邑 小	1	河 田 弦 翠
	中学年	平和へのねがい	大 井 小	4	広 瀬 萌乃心
		けんかにかんぱいできるといいな	岩 邑 小	3	伊 藤 英 汰
		地球の環境を守るために	上 矢 作 小	4	中 根 暖 心
	高学年	夢を夢でおわらせない	長 島 小	6	山 本 裕 維
		だれもが同じように	三 郷 小	6	安 田 芽 生
		あきらめない心	明 智 小	6	伊 藤 晴
	中学校	『変わる』とは	恵 那 北 中	3	樋 田 妃 南
		戦争のさなか家族の選択	明 智 中	2	古 田 脩 真
		「死」が教えてくれたこと	串 原 中	2	三 宅 柚 希